

第22章 やさしい援助、役立つ国際協力 グラントエレメント（GE）と開発貢献指数

著者	野上 裕生
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
シリーズタイトル	アジアを見る眼
シリーズ番号	116
雑誌名	すぐに役立つ開発指標のはなし
ページ	170-176
発行年	2013
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://doi.org/10.20561/00027604

第22章 やさしい援助、役立つ国際協力—— グラントエレメント (GE) と開発貢献指数

● グラントエレメント

開発途上国への協力に関わる資金には、政府開発援助 (ODA)、それ以外の政府資金 (Other Official Flows: OOF) がある。このなかには無償のものや返済の必要な借款が含まれているので、全体として開発途上国に対してどのくらいやさしい条件であるか (譲許条件) を評価するのはなかなか難しい。そこでOECDの開発援助委員会 (DAC) は、一九六八年に開発途上国への資金協力の借款条件の譲許条件の程度を示すひとつの指標として、グラントエレメント (Grant Element: GE) という概念を提示した。

グラントエレメントの計算方法は「基本公式」を参照されたい。返済額がゼロならばグラントエレメントは一〇〇パーセントになるし、この値が二五パーセント以上であることが政府開発援助の要件のひとつになる。これは、ODAは開発途上国の発展を目的にしたものであるからである。

グラントエレメントが二五パーセントに達しない開発途上国向け融資には、輸出信用（自国内で生産された設備などの輸出や自国から開発途上国への技術の提供に必要な資金の融資など）や国際機関に対する融資などがある。グラントとは元本や利子などの返済義務を課さず供与する援助であるが、グラントエレメントは借款の場合にどの程度、グラントの供与条件に近いかを示すものである。

借款条件の緩やかさを示す指標であるグラントエレメントによって償還期間や据え置き期間、金利、借款の通貨建てなどが異なる有償援助案件の譲許性について案件間の比較ができるようになる。グラントエレメントの基本公式や数値例にあるように、借款の償還期間や据え置き期間が長いほどグラントエレメントは大きくなる。

基本公式

グラントエレメント

グラントエレメント（GE）は以下のように求められる。

$$GE = \frac{\text{融資額} - \text{元本と金利返済の現在価値}}{\text{融資額}}$$

ここで現在価値とは将来のお金（の流れ）の価値を、今の時点で評価したもので、1年間の金利が10%の時100円を貯金すると1年後には110円になるので、1年後の100円はいまの時点では100 / (1.0 + 0.1)、約91円の価値をもつと考えられる。現在価値の計算で利用される利率は「割引率」と呼ばれている。グラントエレメントの割引率は10%に設定されている。

グラントエレメントの数値例

今、利子率はゼロ、据え置き期間1、償還期間が4、資金の割引率が10%であるとする、1単位の融資のグラントエレメントは、元本を償還期間から据え置き期間をのぞいた期間（=3）の間に均等に返済すると、この融資の現在価値は

$$\frac{1/3}{(1.1)^2} + \frac{1/3}{(1.1)^3} + \frac{1/3}{(1.1)^4} \approx \frac{0.826+0.751+0.683}{3} = 0.753$$

$$GE = \frac{1-0.753}{1} = 0.247$$

これは25%に達しないので ODA の要件を満たさない。そこで償還期間を5に延長すると、1単位の融資のグラントエレメントは

$$\frac{1/4}{(1.1)^2} + \frac{1/4}{(1.1)^3} + \frac{1/4}{(1.1)^4} + \frac{1/4}{(1.1)^5} \\ \approx \frac{0.826+0.751+0.683+0.621}{4} = 0.72025$$

$$GE = \frac{1-0.72025}{1} = 0.27975$$

これは25%に達しているので ODA の要件を満たしている。このように償還期間や据え置き期間を長くすれば、その借款のグラントエレメントは大きくなる。

● 開発貢献指数

援助に加えて、貿易や投資などすべての政策で、一貫して先進国が開発途上国の開発支援に前向きであるかを評価しなくてはならない、という考え方が広まってきた。このような流れを受けて、ワシントンD・Cに拠点があるシンクタンク世界開発センターは、二〇〇三年から先進国の対外政策を、援助以外の分野も含めて開発途上国の開発支援になっているのか、という問題意識から格付けした開発貢献指数（Commitment to Development Index: CDI）を公表してきた。

CDIは、主要な先進国を対象として援助、貿易、投資、移民、平和維持活動、環境、技術の七つの分野にそれぞれ独立したスコアを作成し、その単純平均をとることによって総合得点を算出している。CDIは、その計算方法が頻繁に改定されていて要約するのが難しいが、個々の領域の指標についておおまかに述べれば、以下のようになっている。

援助・ODA/GDP。ただし、援助実行にともなう行政コストは差し引き、「ひもつき」援助は二〇パーセントだけスコアを減ずる。借款の場合には、過去の債務に対する元本・

金利返済を差し引く。最貧国やガバナンスの良好な国へのODAには高いウエイトをつける。

貿易…開発途上国からの輸入に対する貿易障壁（関税、輸入数量割当、国内生産者に対する補助金）を関税等価値に直したものの（七五パーセントのウエイト）、および開発途上国（非DAC諸国）からの輸入の全輸入に対する比重（二五パーセントのウエイト）。

投資…海外直接投資などが開発途上国の発展にどのくらい役立っているかについて、対象先進国の概要をチェックしたもの。

移民…移民や難民の受け入れに関するさまざまな指標を集計したもの。

安全保障（平和維持活動）…国連の平和維持活動などにどのくらい貢献しているかをチェックしたもの。

環境…地球環境の保全に対する貢献度をチェックしたもので、全体の六〇パーセントは気候変動問題、一〇パーセントは漁業、三〇パーセントは生物多様性と地球生態系の問題に関するものである。

また、二〇〇六年の改定では「技術」に関する指標が加えられている。それは、政府による研究開発支援（ただし軍事技術は割り引かれる）や知的所有権政策がどの程度まで制約的

であるか(特許など)を評価したものである。

● C D I の問題点

表は、世界開発センターのホームページから入手した資料に基づいて、長年上位にあったデンマークと下位にあることが多かった日本のC D Iを比較したものである。

ただ、C D Iには批判もある。たとえば、貧困国への無償援助は高く評価される傾向にあるのに、開発途上国への貸し付けは低く評価されるので、贈与よりも借款の多かった日本は相対的に低い順位をつけられてしまう。

どのような指標も、それは現実の一側面を切り取ったものであることには注意しなくてはならな

表 開発貢献指標 (Commitment to Development Index : CDI)

デンマーク

年	援助	貿易	投資	移民	環境	安全保障	技術	CDI
2010	13.1	5.9	4.7	5.7	6.3	6.2	5.7	6.8

日本

年	援助	貿易	投資	移民	環境	安全保障	技術	CDI
2010	1.1	2.4	4.6	1.8	5.2	2.2	6.0	3.3

(注) CDIは上記7項目の評点を単純平均したものである。

(出所) 世界開発センター (Center for Global Development) のホームページ (http://www.cgdev.org/section/initiatives/_active/_cdi2006/inside、および http://www.cgdev.org/section/initiatives/_active/_cdi/) からインターネットを通じて入手した資料より筆者作成 (2011年5月6日および6月29日、7月5日アクセス)。

《参考文献》

- ODAやOOF、グラントエレメントに関する解説は白井早由里(二〇〇五)『マクロ開発経済学——対外援助の新潮流』有斐閣、六八―六九ページ、および吉川智教(一九九三)「円高により一九七〇年代の円借款のグラント・エレメントは大幅に減少する」(『国際開発研究』第二巻、第二号)七五―八五ページなどを参照した。CDIはRoodman, David(2010)『The Commitment to Development Index: 2010 Edition』Technical Paper, Washington, D.C.: Center for Global Development (世界開発センター [Center for Global Development] のホームページ http://www.cgdev.org/section/initiatives/_active/cdi/inside から二〇一一年七月五日ダウンロードした)、国際開発ジャーナル社(二〇〇四)『国際協力用語集(第三版)』国際開発ジャーナル社、および小浜裕久・澤田康幸・高野久紀・池上宗信(二〇〇四)「開発貢献度指標(Commitment to Development Index: CDI)の再検討」FASID Discussion Paper Number 1などを参照した。

『アジア研ワールド・トレンド』No.193(2011.10)